

帝塚山派文学学会 会報 第5号

発行日：平成29年10月6日

事務局：〒558-0053 大阪市住吉区帝塚山学中3-10-51 帝塚山学院内
実務事務局：電話 090-6608-5576 / メール takamasa.yagi@pc.zaq.jp

本学会ホームページ開設

懸案の本学会ホームページが、10月3日に開設されました。

ドメインはwww.tezukayamaha.jpです。「帝塚山派」あるいは「帝塚山派文学学会」で検索していただくと、ご覧いただけます。

ホームページの中の「研究成果」では、『帝塚山派文学学会 紀要』創刊号に掲載された全論考をPDFで公開することにしました。未だリンクされていない論考もありますが、順次ホームページ上で読んでいただけるように作業を進めてゆきます。また、これまでの会報は全号が閲覧できるようになっています。

本学会の今後の諸企画は、「行事予定」の項に掲載しています。ご参照ください。

なお、ホームページ立ち上げについて、本学会の「文学講座」で共催関係にある「すみよし歴史案内人の会」の榊野隆平さんに多大の協力をいただきました。

帝塚山派文学学会 第3回研究会 報告

9月30(土)午後、帝塚山学院住吉校舎顕彰ホールにおいて第5回研究会が15人の参加のもとに開催されました。

発表者は二人で、まず本会会員の湯浅かをりさんが「詩的流れとロマンチズム——伊東静雄の中のヘルダーリン」のテーマで発表しました。

湯浅さんは甲南女子大学大学院を修了し、これまでに伊東静雄についてのいくつもの論考を発表してきた研究者です。学生時代の伊東静雄は、18世紀から19世紀にかけて生きたドイツ・ロマン派の詩人フリードリヒ・ヘルダーリンに傾倒していましたが、湯浅さんは伊東静雄がどのようにヘルダーリンを受容したかを、書簡や処女詩集『わがひとに与ふる哀歌』中の詩の引用を通じて跡づけました。

もう一人の発表者は本会会員で帝塚山学院大学教授の福島理子さんで、テーマは「詩人の観照——穎原退蔵の芭蕉研究と伊東静雄」でした。

京都大学国文科を昭和4年に卒業した伊東静雄の卒業論文は「子規の俳論」で、その卒論には最高点が与えられました。そこには穎原退蔵講師の強い推輓があったとされています。伊東の卒論中に「白菊の目に立てみる塵もなし」という芭蕉の句に「象徴」性を見ようとする個所があるのですが、昭和26年に刊行された穎原退蔵『芭蕉俳句新講』中の同句評釈にも「象徴」の語が使われています。ところが昭和3年に穎原退蔵が発表した同句の評釈では「比喩」を使って、「象徴」とは言っていません。この変化は詩人伊東静雄の「観照」が研究者穎原退蔵に影響を与えたことを意味するのではないか。福島さんの発表はこの仮説を周到な資料をもって論証しようとするものでした。

なお、上記二つの発表は、来年3月刊行予定の『帝塚山派文学学会 紀要』第2号に掲載します。